



第 23 号

発 行 所

〒157 東京都世田谷区成城
1-13-1

武蔵工業大学付属中・高等学校内

電話 03-3416-4161

発行責任者 村 上 義 雄
編集責任者 清 水 茂

日本型創造性について

名誉会長 神山光男



今年も昨年に続き政治、経済ともに混乱の年ということで、OBの皆様なにかとご苦労の多いことと思ひます。
この多難な時代をのりきるた

めには、企業のあり方として独創的なことをしなければならぬと言われております。

米国人の中にはとんでもない考えを事業化してしまう非常にエネルギッシュな人がいますが、日本は教育制度や社会全体の物の考え方が変わらないうと、とてもたちうちできない面もあります。

科学や技術における日本人の事は、いつも二番煎じで猿まねであるという人がいます。

確かに日本人は、最初に何かを考えたり、作ったりすることはあまり得意ではないのかも知れませんが、しかし、最初の仕事に触発されて、二番目であるけどやがては一番目よりはるかに立派な仕事をする事にかけては、日本人は人並みはずれた才能もっています。別の言い方をすれば、この触発の才能こそが、日本人の創造性といえるのかも知れません。

最初の創造に比べて、二番煎じの創造は、それほどの経費を必要としません。この経済性をフルに
利用し、しかも、先頭のランナーにぴったりくっついて二番目を走り、ゴール間際で一番目を追い抜き先頭に立つのも大いなる研鑽を必要とします。
結果として、豊かな実を結ぶ日本型の創造。そのことよって社会に、世界に奉仕すればよいのではないでしようか。
OBの皆様、二十一世紀に向けて頑張ってください。
※増築工事ですが、平成七年三月の落成に向けて順調に進捗しております。

『同窓会名簿』予約受付延長のお知らせ

本同窓会報第22号にて同封ご案内致しましたが、名簿第3号(発行予定日:平成6年7月)の購入予約を平成6年3月末日まで延長致します。この機会をお見逃しなく。

なお、名簿は会員のみに限らせていただきますと共に既に申し込みをなさっている方は除きます。

*名簿の規格 サイズ B5

ページ数約300ページ

価格 2,800円(送料込み)

申し込み方法:「名簿第3号購入希望」と官製ハガキに記入し、住所・氏名・卒業期又は年度・連絡先電話番号を明記のうえ、下記宛に投函下さい。(会員確認のため卒業期又は年度は必ずご記入下さい。)

〒157 東京都世田谷区成城 1-13-1

武蔵工業大学付属中・高等学校内

「同窓会事務局」宛

第18回 総会報告

■平成4年度活動報告 (平成4年10月～平成5年9月)

- 4. 11. 6 第17回総会 於 東急ゴールデンホール
第1～5号議案 すべて承認されました。
懇親会 於 東急ゴールデンホール
- 12. 10 第1回 理事会 (於 柏クラブ)
 - 1) 総会、懇親会報告、提示意見検討
 - 2) 『柏』編集委員交替、承認
 - 3) 年間活動計画確認
- 5. 1. 14 第1回 編集委員会
 - 1) 『柏』21号 編集内容検討および確認
- 2. 19 第2回 理事会 (於 柏クラブ)
 - 1) 会計状況および今後の収支見直し検討
 - 2) 『柏』編集委員会より報告、承認
 - 3) 名簿3号、日程、収支見直し検討
- 3. 1 母校(高校)卒業式 村上理事長出席
- 3. 10 『柏』21号発送
- 5. 8～12 母校体育祭
- 6. 22 第2回 編集委員会
『柏』22号 編集内容検討および確認
- 7. 9 第3回 理事会 (於 柏クラブ)
 - 1) 卒業式、体育祭報告
 - 2) 名簿準備状況報告、販売金額検討
 - 3) 第18回総会開催要領について
- 8. 23 神山校長との懇談会
- 9. 18 母校訪問、武蔵工業学園卒業生との交流について、その他打ち合わせ
- 10. 15 第4回 理事会 (於 柏クラブ)
 - 1) 第18回 総会議案書検討
 - 2) 『柏』編集方針検討
 - 3) その他
- 10. 16～21 『柏』22号発送
- 10. 20 第2回懇親ゴルフ大会 (厚木国際カントリークラブ)



■平成4年度決算報告 (平成4年10月～平成5年9月)

〈収入の部〉	科目	予算額	決算額	内 容
	入 会 金	600,000	546,000	40期生264名 その他 9名
	年 会 費	1,200,000	1,314,000	40期生264名 その他393名
	引 継 金	3,640,950	3,640,950	前期より
	雑 収 入	50,000	153,204	預金利息
	合 計	5,490,950	5,654,154	
〈支出の部〉	科目	予算額	決算額	内 容
	会 議 費	50,000	58,580	理事会4回
	総 会 費	50,000	121,587	総会援助金
	『柏』制作費	50,000	18,115	編集委員会1回、その他
	通 信 費	690,190	678,258	柏20.21号発送費 661,204円 その他 17,054円
	印 刷 費	560,000	599,112	柏20.21号 各8500部 459,720円 封筒 23,000円 振替用紙 63,448円 規約 42,745円

発送アルバイト費	165,000	169,000	柏20.21号発送
事務費	50,000	37,615	事務用品費
同窓会賞費	50,000	50,000	テレホンカード
小委員会費	50,000	30,000	懇親会ゴルフロフイー代
名簿整備費	50,000	50,000	名簿登録、修正費
予備費	50,000	47,595	神山校長と懇談
繰越金	3,675,160	3,794,492	
合計	5,490,950	5,654,154	

〈繰越金内訳〉	普通預金口座残高	42,876円
	定期預金口座残高	3,898,915円
	郵便振替口座残高	74,831円
	現金	△ 78,704円 (会計立替金)
	合計	3,937,918円

一般会計繰越金 3,794,292円 + 名簿会計 143,626円 = 3,937,918円

上記のとおり平成4年度の会計報告をいたします。

平成5年11月5日 会計 上島正義 ㊟
会計 今井章久 ㊟

上記、会計内容を監査の結果、正しく表示掲載されていることを認めます。

平成5年11月5日 会計監査 秋山知康 ㊟
会計監査 今村恒雄 ㊟

■平成5年度予算 (平成5年10月～平成6年9月)

〈収入の部〉	科目	予算額	内 容
	入会金	600,000	41期生 260名 その他 40名
	年会費	1,200,000	41期生 260名 その他 340名
	引継金	3,794,292	前期より
	雑収入	50,000	預金利息
	合計	5,644,292	
〈支出の部〉	科目	予算額	内 容
	会議費	50,000	理事会4回、小委員会1回
	総会費	50,000	総会援助金
	『柏』制作費	50,000	『柏』編集委員会4回、取材費
	通信費	701,970	柏22号 3200部×62円 4300部×72円 508,000×0.95 柏23号 3300部×62円 204,600×0.95 その他 25,000
	印刷費	650,000	柏22.23号 各8500部 450,000 入会案内、規約、その他 100,000 封筒(2種類、各5000) 100,000
	発送アルバイト費	171,600	柏22号発送 3200×@15 4300×@18 125,400 柏23号発送 3300×@14 46,200
	事務費	50,000	事務用品
	同窓会賞費	50,000	体育祭同窓会賞
	小委員会費	50,000	親睦企画委員会
	名簿整備費	50,000	名簿整備アルバイト費
	予備費	50,000	
	繰越金	3,720,722	繰越金、未取引当金
	合計	5,644,292	

総会・懇親会報告

同窓会事務局長 阿部 俊夫

総会も回を重ねて十八回となりました。十八年前の結成総会で産声をあげ、どうにか高校を卒業する年齢まで成長することができました。

これまでの成長の過程はまさに『手塩にかけ』という言葉がピッタリくるほど、多くの皆様のご協力の賜物でした。結成直後から、幾多の難問と資金確保に翻弄された歴史でした。

ここ数年、資金確保の件は多くの会員、母校教職員、PTAの皆様の絶大なご協力により順調に推移してまいりました。内容については決算報告、予算報告を参照ください。しかし、今回の郵便料金値上げは、本会の会計にも直撃弾となってきました。この件については本年度の課題として検討してまいります。

また、直接運営を預かる理事会は年に四〜五回開催され、種々の課題を処理し、新たな方針を作成し、実行に移してまいりました。本年度も活動の方針は例年と変わりませんが、実質的な内容は数年前には思いもよらなかった活動内容となってきました。

母校では正門部分の改築が始まっております。完成時に時計塔のある正面玄関になる予定です。同窓会では庭に柏の木を贈呈することを決定いたしました。

総会終了後の懇親会は例年楽しい時間を過ごしています。料理とアルコールをテーブルに持ち寄って世代を越えた皆さんが話に夢中に。また一昨年からは趣向を変え、会の途中に賞

品争奪のゲームを取り入れ、一層雰囲気盛り上がりしています。一昨年はビンゴゲーム、今回

本年度の総会・懇親会は

十一月十一日(金)

午後六時三〇分より(遅刻可)

会場 東急ゴールデンホール

により開催されます。同級生、先輩、後輩と誘い合わせてご参加ください。

理事会報告

事務局長 阿部 俊夫

一 名簿三号について

皆さんからの購入申し込みが多数あり、当初の販売予定金額の見直しを行いました。販売金額は一部二八〇〇円です。既に申し込んでいた皆様への請求金額も同額でお願いいたします。

巻頭記事は、当初の予定どおり『母校の歴史』となるような写真を中心とした内容で考えております。母校の図書室に一期生から四一期生までの卒業アルバムが全巻そろっており、これを借用し、写真の選定を行います。皆様の中で思いついたエピソード、写真等があればご投稿いただけましたら幸いです。

発行は予定どおり七月となります。既に申し込みをいただいた皆様には長期間お待ちすることとなりますが役員一同頑張っておりますのでご了承下さい。

は単純にジャンケンのみ、担当理事の努力で優勝賞品には何とビデオデッキが登場、出席者一同ビックリすると同時に童心に返って『ジャンケンポイ』。ゲーム終了後は一層の親近感で会話が弾んでおりました。

ここ数年十六期の皆さんが参加者の中で多数を占めてきております。このことに刺激され他の期の皆さんからも『来年は我々も大いに誘い併せて参加しよう』とのうれしい発言が相次ぎました。

二 年間活動計画について

理事会では年間五回の役員会と各種小委員会、母校関連行事などを年間計画としております。昨年まではどちらかというと本会の運営についての議論が中心で、母校の行事については卒業式への参加と体育祭への同窓会賞贈呈程度でした。本年度からは柏苑祭、その他への対応も検討課題としてまいりたいと考えております。

三 その他

さてここでクイズを出してみます。

クイズ1

母校が発足したときの正式校名は何でしょう。

ヒント 『武蔵工業大学付属高等学校』は不正確です。

クイズ2

私たちの仲間に夜間高校を卒業された方がいます。では夜間高校は何年頃から何年頃に存在したでしょう。

ヒント 母校が尾山台に存在していた頃です。答えは次号『柏』二四号を参照下さい。

佐藤紀和先生を訪ねて

平成五年の暮れも押し詰まって編集部では、母校で第一期生から第四十期(昨年三月卒業)生まで体育の教科を長年に亘り担当され、二年程前、病に倒れ休職されたのち、平成四年に母校を退任された佐藤紀和先生をお訪ねいたしました。

先生は現在、病気療養中でしたが無理にお願いし、思い出話等を取材させていただきました。インタビュは事務局の阿部です。

阿部 大変ご無沙汰致しておりますが、先生は一昨年ですか、菅平の山荘で学校のスキー教室を引率され、その時に倒れられたそうですが。

佐藤 エ、二年程前になりますか、倒れた時は意識がもうろうとして、何が何だか全く覚えていません。

阿部 すると、平成二年度の第十五回同窓会総会の際のすぐ後ですね。総会は毎年十一月と決まっておりますので、たしかその時出席していただいた記憶があります。
佐藤 そうかもしれないですね。倒れて丸二年程になるからナア。

言葉が不自由になり未だ回復しておらんのです。

阿部 でも充分聞き取れます。失礼ですけれど、お話を聞きしたときは、もつとご不自由になつてしまったかと、お元氣なご様子で安心しました。

佐藤 そうですか。言葉が不自由で心で思っていることがうまく表現できずにイライラすることがあるんだヨ。

阿部 ほかにご不自由な点はないのですか。

佐藤 右手で「筆」を持つことができないので文章が書けないのが残念です。「箸」は、しっかりではな



いが持つことはできるのですが。
阿部 歩くことはどうですか。

佐藤 「杖」を持たれていますが、散歩程度なら、行なっているがね。

阿部 さて、先生のご出身はどちらですか。



佐藤 福井です。
阿部 福井にいらつしやるときから体育の関係ですか。

佐藤 いや、東京に出て日本体育大学を卒業しました。柔道でね。卒業後、大阪に行き、三年か五年か？警察に勤務したことがあります。

阿部 武蔵工大の附属の教員として来られたきっかけは何でしょうか。又、おいくつの時ですか。
佐藤 そうですね、二十代のとき

だと思いますが、記憶に出てきません。大阪にいたときに仲間と東京に出ようと。

阿部 現在、先生はおいくつになられましたか。

佐藤 六十六歳かな。

阿部 先生はムサ校に来られて、たぶん今年で四十三年になられると思いますが。

佐藤 そんなになりますかね。第一期生が卒業して二期生のときに教師として教壇に立ったと思えます。同時期に川本先生、小西先生熊切先生もおつたようです。

阿部 先生の昔からのニックネームは確か「黒ブタ」でしょう。

佐藤 そうそう(笑い)。いつごろから呼ばれたのかな。

阿部 そもそも「黒ブタ」という愛称はどのようにして付けられたのでしょうか。この愛称は先生も愛着を持っておられましたね。

佐藤 そうそう。ハッハッハ。そうかもしれないね。一番最初に付けた生徒は覚えていませんよ。

阿部 私が三十年前、佐藤先生と呼ぶずに「黒ブタ」と呼ぶようにと先輩に指導されました。しかし、

面と向かって呼ぶとドエライことになるからな」と。

佐藤 ? : : : :

阿部 当時の学校の状況はどのようでしたか。

佐藤 当初は、体育の教師は私人しかいなかったんですよ。そーだ、西谷先生もいらっしやったかもしれない。その頃は大学と同居していたので先生方も大学の先生と同じ先生が授業を受けもっていた。

阿部 お話をお聞きすると、まだ中学が出来ていなかったのでは。

佐藤 そう、そう。高校だけで六クラスしかなかった……かな。

阿部 体育の先生は、一人か二人で充分だった……ですね。

佐藤 そう。そう。

阿部 現在いらっしやる先生方で第一期生周辺の状況をご存知の方は、佐藤先生、川本先生、小西先生位だと思います。

一期生から現在までの学校の歴史にかかわっている貴重な存在です。ハイ。

佐藤 そんなものかなあ。

あの頃は木造校舎でそのあと鉄筋の四階建に移ったかなー。当初尾山台の附属中、高に勤務していた頃に住んでいたのは、確か近くの一軒家を貸してもらっていました。

阿部 いつごろご結婚なさったのですか。

佐藤 日体大を卒業して大阪に行き警察に就職し退職して、東京のムサ校に来たのです。(?)

阿部 大阪にいらっしやるときに奥さまを見つけたのですか。

佐藤 いや、福井の地元で結婚しました。



〈川崎市多摩区のご自宅にて〉

ました。

阿部 附属の運動クラブを調べると、ほとんど創部は三期生、四期生あたりで帰着するのですが。昨年の総会のおきにお会いした先輩で我々がつくったのだと。野球部も二期生でつくった様ですね。

佐藤 そうそう。バスケット部をつくった覚えもある。三期生か四期生でバレー部をつくった記憶がある。

阿部 振り返ると各年代の生徒(悪ガキ)にとってこんな恐い先生はいませんかでしたし、記憶に残っている忘れられない先生の一人でしたよ。恐かった先生は印象に残るものです。

佐藤 そんなものかな。確かに気は荒っぽかったが、愛情は人一倍あったはずだと思うのだが。

それはそうと同窓会ができたのはどのくらい前のことだったかね。

阿部 十九年前に同窓会が再建されたと聞いています。

話は変わりますが今年の同窓会名簿作成に当たって第一期生から最近の卒業生までの写真を掲載する予定です。当時から各先生方の

写真も載せるつもりですのでとてもなつかしく思われると思います。

佐藤 それは非常に楽しみだね。是非、拝見したいな。

阿部 本日は病気療養中にもかかわらず押し掛け、ご無理を申し上げ、お話を伺いさせていただいたことに感謝致します。

佐藤 病が病だけに、話に解りづらい点があったと思いますが勘弁して下さい。話をしていると神経の回転が良くなるのか次から次へといろいろと思いついてきます。意識はあるのだが言葉に出てこないのが癪です。

阿部 先生も充分療養なされて、再び元気な「黒ブタ」に戻って下さる様お祈り申し上げます。本日は有難うございました。

『願望集』
編集委員会では、同窓生の皆様のご意見・ご希望・近況・随筆等幅広く記事を募集致しております。忌憚のない投稿をお待ち致しております。

近況報告

恩師の助言

昭和五十一年度卒 吉目木晴彦(二十三期生)



東横学園小学校から武蔵工業大学付属中学校に入学したのは一九七〇年でした。大阪で万国博覧会が開かれた年だったと思います。中学校時代は、国語の須藤先生、英語の日影先生、生物の吉田先生が担任をして下さり、高校では国語の山本先生、物理の井上先生、化学の別所先生のクラスにいました。私は高校時代から文学志望だったので、国語科の研究室にはよく

出入りし、学校を卒業して成蹊大学に進んでからも、時々お邪魔していました。実家が近かったこともあって、行きやすかったのですが、先生方の大切な時間を割いていただいたのは、今思うと心苦しいことでした。

在学中は、成城学園前駅の近くにある、硯図書館にも良く通いました。文学全集に収録されているような古典的な小説は、高校時代に一番良く読んだような気がします。読んだ作品の感想について、山本先生や、今は東横学園大倉山高校の校長先生をなさっている高野先生に、お話しに行ったことを覚えています。幼稚な感想を申し上げたのですが、先生からは、その後ずっと生きてくる重要な助言を戴きました。当時、もう習作

を書き始めており、そのことに關して山本先生からは、「まず、センテンスの短い文章を書くように心掛けなさい」と、何度もアドバイスをされました。高野先生からは、「十九世紀にヨーロッパで書かれた作品を、翻訳でも良いからなるべく多く読んでおきなさい」と指導して戴きました。

山本先生に教えて戴いたことは、日本語の文法を正確に身に付けるために、不可欠なものでした。また、口語体で書かれる近現代の小説は、十九世紀ヨーロッパ文学の影響を強く受けているので、近現

代小説の基本的な枠組みを理解するためには、高野先生が勧めて下さった読書は必須のものでした。もし今、私が文学を志す後輩に助言を求められたら、昔、自分が教わったのと同じことを言うと思います。

文学の世界ではえてして、大変な努力を重ねながら、努力の方向がズレているために、なかなか成果が上がらないという、残酷なケースがあります。

十代の頃に、適格な方向付けをして下さる恩師に出会えたことは、私にとって、本当に幸運なことでした。



寂寥郊野 受賞!
吉目木晴彦 芥川賞

アルツハイマー病が愛を砂漠に変えた。
国際結婚と老いの孤立を描く現代文学の秀作

定価1600円(本体1353円) 講談社

僕にとってのキーストーン

武蔵校を慕う

ニューヨークより

比嘉良治

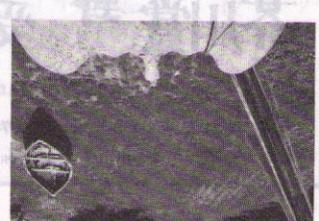
満開に咲き誇る桜の並木をくぐりぬけると、ゆるやかな上り坂から急勾配の下り坂となる。ここから多摩川の土手とその向こうに川崎が見えるはずだが、今日も砂埃に朝日が反射して、おど色にかすんでいる。川べりや広々とした畑には、すでに春を告げる若葉が芽をふき出していても、整備の行き届いていない新制、武蔵校の校庭は荒々しくここから舞い上がる砂埃は新学期の尾山台名物となっていた。柏のボタンが鮮やかな真新しい学生服を身に着けた新入生とともに、僕の新しい人生もスタートした。



編集局からアメリカに関する原稿を、との依頼であったが引き受けた時点からタイムカプセルが解かれたように、次々に浮かび上がる顔、顔、顔、数多くの思いでが脳髓を電光石火のように止めどなく流れ、指は自然にキーボードの上を滑り三昔も前を綴り出す。多摩美を卒業して直ぐ、武蔵工業大学付属中高校、当時図工と言ったか美術と言ったか覚えは確かでないが教師として就任した。自由絵を描きたいと思っていた僕は、専任ではなく講師として雇ってくれと談判に挑んだ。アルバイトなんて存在せず、美術教師の就職難にとんだ奴が来たかと学校側も戸惑ったようだが、要望はあっさり拒否されししぶ完全就職と相成る。工業による経済発展をめざす社

会情勢でしたので武蔵校も入学は厳しく、難関を突破してきた優秀な学生であった。中一の小さな体で千葉から片道三時間もかけて通学する学生もいた。この優れた青少年にたいし、なおも受験体制でかためようと学生を鞭打つ校長、それを支える周囲に、僕は理解はできてもとても同調は致しかねた。もっと人間らしく、科学工業による夢と、反対の汚染問題（一九六二年中一の学生による記録映画制作）、自然、自由な発想と創造、心の触れ合いなどを教育の理念としていた。今でこそ当然なことだが当時は反道青二才先生として風当たりもつよかった。

理屈より実践、学生たちに体験をすすめる、校外活動、女子高との交流もさかんに行った。美術部は会津磐梯山、五色沼で、卓球部とは福島で合宿、クラスではスキー、スケート、富士登山のスポーツから美術館や画廊巡りとよく行動をともにした。等々力溪谷の上にあった広々としたアトリエは学生たちの結構な溜まり場となり、恋の邪魔になることもあった。



そのころ僕は日本脱出を企てた。金もなく、英語もできず、知人もいないがNYで芸術に没頭したい情熱だけあった。さしづめ旅費をつくる決意をした。給料とささやかなボーナスをそっくり溜めることとしかない。一万三千円の初任給ではじまった武蔵校、一ドル三六〇円でしたのでNYは遠くに感じた。たえず金がなく、たえずひもじかったが制作も旅行も遊びもアルバイトも人に負けず楽しんでこんなことをしらない学生たちによくたかられもしたが喜びでもあった。三年間親しくした学生との別れは辛かったが片道切符と一五〇ドルが出来たので辞表をだした。中二C組の担任だった僕にクラスで送別会をしてくれた。並の送別会では面白くないとして、早朝多摩川に集まり、上流にむかってハイキング、腹の空いた頃合を見計

らって、薪を拾い飯盒でメシを炊く、それを食べてまたぶらぶら歩きます。疲れたところで解散となかなか優雅で洒落たことをしてくれたと今でも心に残る。

しまったノアメリカのことを書くべきだがすでに紙面ぎれとなつてしまった。また、いづれ語るチャンスが得られるでしょう。読者のみなさまと共に出発した〔柏〕のマークの武蔵校は僕にとつてもキーストーンです。三〇年たったいま、ロングアイランド大学教授沖縄県民間大使との重たい名を肩に、勝手に若い人々の国際交流や芸術活動を目的として活動を楽しんでいる。二年前、またまた自分にとつて馬鹿らしいことがしてみたくなり、カナダからNYまで自転車で一〇〇マイルを単独旅行をした。東京、広島往復の距離らしいがテントに寝袋を積んでのチャリンコは壮快だった。

今、実現させたいことは日米のろうあ者(高校生)の交流です。お互いに武蔵校号(88)行きで突っ走りましょう。

懐かしい顔

しばらくお休みいたしておりましたこのコーナーでしたが掲載のたびに反響をいただいております。掲載された皆様に連絡をとりたい方は事務局までご一報ください。前号同様①卒業年度②最終学年時の担任③クラブ活動としております。



保坂英雄

- ①一期生(昭和二九年三月卒)
 - ②川本季男先生
 - ③野球部(大学と合同で)
- 「一〇十期が一番辛いとき」
一期は一九五〇年の朝鮮戦争が勃発したその翌年の高校入学となるので、五八才。十期の方は四八才にいられた。
- この層は社会に進出してから、高度成長時代の魁となってヒタ走

り、アツと言う間の半生であったが、九〇年に至りバブルの破綻からそれを起因とした日本式経営の終息に見舞われ、定年間際で立ち往生するのである。

外にあってはリストラによる企業内失業、雇用調整等に脅かされ内にあつては主婦のパートはなくなり、子供は採用内定取り消しに遭うというトリプルパンチの重圧に耐えているのがこの年代なのである。

自営業の方達の場合はこれらの裏返しとなるだけに、執行する立場もさぞお辛かろうとお察しする。でも、ここへ来て米国の景気に曙光が射してきた。さあ/もう一頑張りだ。



小泉俊彦

- ①十三期生(昭和四十一年三月)
- ②百瀬晃先生
- ③美術部

尾山台時代から成城時代にかけての大変懐かしいお二人の先生にお会いする機会がありました。当時社会科の田中義昭先生と美術の比嘉良治先生です。田中先生には昭和三五年入学D組クラス会を武蔵工業会館にて開催し、御出席いただきました。又、比嘉先生には

沖縄での作品発表の帰途、東京滞在中に一年後輩のオフィスでお会いしました。田中先生は島根大学の歴史教室で、一方、比嘉先生はNYの大学でファインアート学部教授として御活躍されておられます。思えば当時の先生方のお年を遙かに凌ぐ中年まったただ中の我が世代ですが、お二方も磊落な性格は当時そのまま、お会いしたとたん三十数年前のあのキャンパスにタイムスリップした様な楽しいひとときを過ぎて戴きました。凡そ「偏差値」などといった言葉には縁遠かったあの日々、クラブ活動での合宿、柏苑祭での製作活動など、「附属」を十分に謳歌しました。そうした活動を通して、諸先生方や仲間と楽しい思い出が作られたことに感謝しています。

第3回 懇親ゴルフ大会開催について

平成4年の第1回、平成5年の第2回大会に続いて、第3回大会を実施致します。

昨年は私共の宣伝不足も有り、参加者が予定を下回ってしまいましたが、21期生の長谷部さんが優勝し、無事終了いたしました。好天のもと好プレー、珍プレーの続出で参加者の皆様には有意義な一日を過ごすことができたと思っております。

実行委員会としては、この友好の輪を大きく広げることを目的としており、担当理事の皆さんの協力で今年は日曜日の開催を決断いたしました。より多くの皆様の参加をお待ちしております。

記

- 1 日 程 10月16日 (日曜日)
- 2 場 所 富士ゴルフコース
詳細の時間、場所等は申し込みの皆様に後日連絡いたします。
- 3 ゲーム方式 シンペリア方式 (18ホールズ、ストロークプレー)
- 4 募集人数 5組 (20名)
- 5 会 費 4,000円
プレーフィ 約40,000円は各自負担
- 6 申し込み方法



参加希望者は官製ハガキに

①氏名 ②卒業年度 ③連絡先(住所、電話番号) ④H.C

を記載の上、3月末日までに担当理事(16期生、岡田)まで郵送ください。

ハガキを受領後、料金の振り込み用紙を郵送いたします。料金振り込み終了にて申し込み受け付け終了とさせていただきます。

〈ハガキ郵送先〉

〒183 府中市分梅町3-34-4 岡田光雄 (Tel.0423-68-3406)

武蔵工業大学付属中・高等学校同窓会 懇親ゴルフ実行委員会

実行委員長 保坂英雄 (1期生)

編集後記

同窓会報の編集にあたり、様々な角度より興味深く読んでいただける様、理事会での提案・ご投稿・インタビュ等混えて積極的な誌面作りをと編集委員会メンバー「僅かな誌面を有効に」(郵便料金の値上げは響きま

す)をモットーに努力致しております。
さて、バブルが弾けて三年半から四年程(経企庁発表はいつもずれます)経過しますが、日本経済は一向に底が見えません。ご承知のとおり、これは単なる景気の循環型でなく、政策の変化・国際化社会への布石・個人社会への移行などなど。従来の価値感の転換を迫られると同時に「痛み」を伴う洗礼なのかもしれません。大袈裟に解釈すれば日本にとっては一つの歴史・文化の転換期とも言えるのでは。

この記事をまとめている前日には東京で二十五年ぶりの大雪となり、一面銀世界。休日

も重なり「時」が止まった様。
母校では既に二月上旬に終了しましたが一部の大学の入試も重なり、TVで写し出される光景に会員皆様も「懐しき昔」を思い出されたことでしょう。次回には母校との連絡をさらに密にし、誌面作りを進めたいと思っております。
(清水記)